

長谷川 望牧師

- * 「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。『あなたの父と母を敬え。』これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、『そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする』という約束です。』（エペソ6：1～3）子どもたちが両親に従うことは当時の家父長制の世では当然のことであった。しかし、聖書はその理由を述べる。それは正しいことであり、神様から祝福があり、長生きができて幸せになるからだと言う。それは「主にあって」できることであるが、その意味をある程度わかっているクリスチャンの家庭の子どもに向かって言っている言葉であろう。
- * 同時に親がどうあるべきかも述べる。「父たちよ。あなたかたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」子どもに対して権威を振りかざさないで、十分配慮をもって接しなさい。イエス・キリストのような愛を伴った戒めを子どもが親に感じることができるよう育て方をしなさい。「聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたか家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。」（申命記6：4～9）まず、私たち自身が聖書のことばを心に刻み、子どもに教え込むことが教育の基本である。そして、親は、キリストの恵みを全身であらわしている姿を子どもに見せることが信仰継承に一番必要なことではないか。
- * 「奴隷たちよ。あなたかたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。人のごきげん通りのような、うわべだけの仕え方でなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、人にではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。」（エペソ6：5～7）当時の「奴隷」は主人の所有財産であり、労働力であった。多くの権利や自由はなかったが大家族の一部を構成していた。主人がクリスチャンであれば、すべての家族はキリストにつながっており、すべての人がキリストのしもべなのである。だから奴隷は「キリストに従うように」「キリストのしもべとして」主に仕えることができた。「人にではなく、主に仕えるように」とは、真心から、善意をもって奴隷のように仕えることである。私たちが家族に、隣人に、教会に、主に仕えるように仕えよう。